

でございます

のあいさつ

さまざまな課題に

向き合い

明るい未来へつなげる1年に

あけましておめでとうございます。

今年も町民の皆様にとって良い年でありますように心からお祈り申し上げます。また、日頃の行政へのご支援、ご協力に對し、心より深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと景気の低迷、雇用不安に加え、震災からの復興、原発再稼働、社会保険、TPP問題に、尖閣諸島・竹島の領土を巡る中・韓国との緊張関係とまさに難問山積の1年でした。

そのような中で、町の大きな課題でありました財政健全化団体からの脱却を実現することができました。平成21年度から4カ年の計画を作成し、行財政改革や各種事業の抑制、人件費の削減などに取組んできました結果、計画より1年早い同団体からの脱却となりました。

これもひとえに町民皆様のご理解、ご支援の賜物として、改めて感謝するしだいです。

しかしながら、このことによつて、財政の課題が全て解決されたわけではなく、いまだ財政の基盤は脆弱であり、引き続き健全化を推進していかなければなりません。

同時に昨年は、町の指針となる「まちづくり総合計画の基本計画（10年）」が、中間年を迎え、新たな見直しを行い、元氣のある洞爺湖町の再生に向けて、確実な一歩を踏み出した年でもありました。

近年、新しいタイプのイベントや「食」を通じた事業を展開し、洞爺湖町の魅力を国内外に積極的にアピールしてきましたが、そういった取組みも着実に実を結び、6月に開催された「2012 TOYAKO Oマンガアニメフェスタ」では、約3万人のアニメファンが訪れ、温泉街が大いににぎわいました。

また多種多様な食材と観光を結びつける取組みも着実に前進



洞爺湖町長
真屋敏春

を遂げ、10月に開催された「大秋穫祭」では、初めて町内の農業、水産業、商業、観光業などの各団体がスクラムを組み、洞爺湖周辺の「食」をアピールし、大きな成果をあげました。

このような多様な取組みで、多くの若者が、そのイベントの中心となり、まちの活性化に重要な役割を果たしています。急激な少子高齢化によって定住人口が1万人を割る中で、こういった若者の力が、一層大きな力となり、まちづくりに反映できるように支援をして参ります。

更に、まちの活性化にむけて、これまで進めてきた定住対策や雇用対策にも力を注ぎ、人口の減少に歯止めをかけていかなければならないと考えます。

本年は、昨年見直した「まちづくり総合計画の基本計画」を

具体的に進めていく年です。

洞爺高校の跡地を含めた洞爺地区の振興をはじめとして、まち全体の振興策を具体的に押し進め、地域経済を活性化し、「魅力あふれる、元氣のある洞爺湖町」を実現していくことで、町民一人ひとりが誇りを持って暮らせるまちを作りだしていきたいと考えます。

「連携・協働・融和」を基本に、町民皆さんとの対話を行いながら、困難な課題にしっかりと向き合い、明るい未来へとつなげる1年となりますよう精進していく所存です。

町民皆さんの一層のまちづくりへのご参加とご協力をお願いいたしますとともに、皆さんにとって実りある年となりますようご祈念し、新年のご挨拶いたします。